生野英二全集

5

庄野英二全集

5

偕成社

庄野英二全集　第五巻

印　刷　昭和五十四年十二月二十五日

発　行　昭和五十五年一月十日

著　者　庄野英二（しょうの えいじ）

発行者　今村　廣

発行所　株式会社　偕成社

〒一六二　振替　東京五―一三五二番
東京都新宿区市ケ谷砂土原町三の五

電話　東京（〇三）二六〇―三二二一（代）

印　刷　新興印刷製本株式会社

製　本　文勇堂製本工業株式会社

定価　二五〇〇円

乱丁本・落丁本はおとりかえいたします。

©EIJI SHÔNO Printed in Japan 1980

庄野英二全集　第五巻

装幀カット　庄野英二
装幀協力　山高　登

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

目

次

こどものデッキ……11
朝風のはなし　13
イブー　イブー　19
仔牛とはりねずみ　30
りんご少女　46
汽車にのった仔牛　49
みみずくのおばあさん　53
ろばのリボン　57
おさるのパンク　103
ある牛飼いの話　119
子供のデッキ　129

小鳥の森……141
かもつれっしゃ 143
牛のさんぽ 146
くさもち 149
復活祭のたまご 151
もうくろの話 155
くちぶえ 158
金太郎のサーカス 161
鉛筆(えんぴつ) 164
手品使いのクック 166
あじさいとかたつむり 168
長い日曜日 170
さんぱつ 175
おくに 176

マンゴー　177
あまりに月の光が明るいので　179
アルプスの谷間の子供　181
白いキャンバス　184
むぎわらぼう　187
リスとダリア　191
犬　194
アケビとり　195
落葉　199
小鳥　200
小鳥のくる柿の木　202
カバはセロをひいています　204
おふとん　206
馬小屋　207
カンガルーのおじいさん　209
ヒマラヤの竜　212

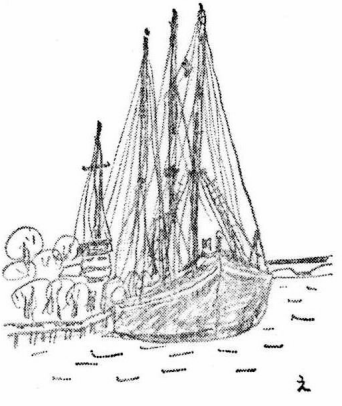
テレビのニュース　215
リスのてぶくろ　218
パン　221
カニのドーナッツ屋さん　222
三人のふなのり　225
ポナペ島……229
ゆうじの大りょこう……245
火のおどり……293
1　カムルのねがい　295
2　「岩」のけっしん　297

3 とりでのたたかい 300
4 「風」のけっしん 303
5 うかびあがるかげ 306
6 シカのアルチュス 308
7 アルチュスのけいかく 311
8 アルチュスのちゅうもん 313
9 にぎやかな しゅっぱつ 316
10 オオカミのもり 319
11 かわいいむすめ 321
12 いのちがけのおどり 324
13 みんなの火 328

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

大きなモミの木……415
あひるのスリッパ……431
あひるのスリッパ 433
うさぎとすいせん 436
おうむのいえ 439
りすのクリスマス 442
あとがき……446
庄野英二全集 第五巻解題 戸塚 惠三……448
庄野英二覚え書 前川 康男……452

こどものデッキ



朝風のはなし

ぼくの家から出征したのは、当時二歳の一頭きりしかなかった馬だけであります。背が高くて胸はばが広く、鹿毛の美しく毛なみの光った馬で、名まえは「朝風」ともうします。

お父さんもお母さんも朝風をたいへんかわいがっておられましたので「朝風だけは、いつものように馬市には売らないで畑の仕事や荷車ひきに手伝わすのだ」とおっしゃって、家族の中のひとりとしてだいじにそだてておられました。もちろん、ぼくは大の馬好きですから、まぐさや水をやったり、寝わらをしきかえたり、青草を刈ってきたり、いっしょうけんめいに世話をしました。朝風もぼくになついているので、ぼくが馬小屋にいくと鼻のあなをふくらまして、まえがきをしてよろこびます。

ところが昭和十八年三月のある日、朝風にも人間と同じように、召集令がきて、近くの町の連隊に応召をしてしまいました。その日はごちそうをうんとたべさして、みんなで馬のからだに千人針をつけたり、お札をつけて村はずれまで見おくりました。ぼくはわかれるきわに豆をいっぱいたべさせて、くびのふくろにも豆をつめておきました。お父さんは町の連隊までおくっていきましたが、夜になって帰ってこられたときには泣いておられました。その晩寝床にはいってから、ぼくが、

「今夜は馬小屋で朝風の足音がしないのでさびしいねえ」というと、お母さんも泣きだしてしまわれました。

それから朝風はどこへいったのかわかりません。きっと戦地へいったにちがいありませんが、満州か中国か南方か、だれも知っている人はありません。

戦争が終わって、遠い戦地からもおおぜいの兵隊が復員してきました。ぼくの村にも復員した人が二十名以上います。

ある日、ぼくはお父さんに「お馬はなぜ復員しないの?」とたずねました。するとお父さんは「ポツダム宣言には日本軍人を復員さすと書いてあるが、馬の復員は書かれていないので馬は帰れないのだろう」とおっしゃいました。

戦争のために朝風も、もうふたたびぼくの家へ帰ってこられないのかと思うと悲しくてなりません。けれどぼくは朝風も人間のように、なんとか無事で帰ってきて平和にいっしょに働けるように、毎晩、寝床の中でいのっています。

村で復員した人があれば、ぼくはかならず「あなたは朝風に戦地であったことはありませんか?」「終戦のあとで朝風ににた馬を見かけたことはありませんか?」と、質問します。

満州の北のほうから帰った一人がこうもうしました。

「秋の末、雪のふるすこしまえのある夕方のことです。私が帰るとき、汽車の窓から見ていると、大きな沼のそばに、朝風ににた鹿毛の馬が、ひとりでさみしそうにたっていました。沼の水はすみきっ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com